

平田体育館なくさないで

出雲市に党支部が申し入れ



島根県出雲市の日本共産党の平田支部は6月24日、地域の中心部にあり「平田体育館」の存続を求めて市に申し入れました。(写真)後藤由美、吉井安見の両市議が同席しました。

出雲市は現在、3年後の2024年4月の開館をめざし、新しい体育館の建設を進めています。同時に、今ある出雲体育館、平田体育館、斐川第2体育館の3体育館の廃止を決めており、平田体育館がなくなれば、旧平田市に体育館が一つもなくなります。

参加者は「新体育館が

できて、車を運転しない利用者には遠くまで行く必要はない」「平田に体育館があるからこそ利用者が多く、みんなが楽しめて健康維持にもつながっている」など地元の声を紹介。「ぜひ平田に体育館を残して欲しい」と強く要望しました。

市の担当者は「学校の体育館や現在計画中の平田コミュニケーションセンターと行政センターの複合施設を使うなどの検討を」などと説明し、「廃止計画を変えることは難しい。不便をかけるが、新体育館の使用を」などと答えました。

田コミュニケーションセンターと行政センターの複合施設を使うなどの検討を「などと説明し、「廃止計画を変えることは難しい。不便をかけるが、新体育館の使用を」などと答えました。

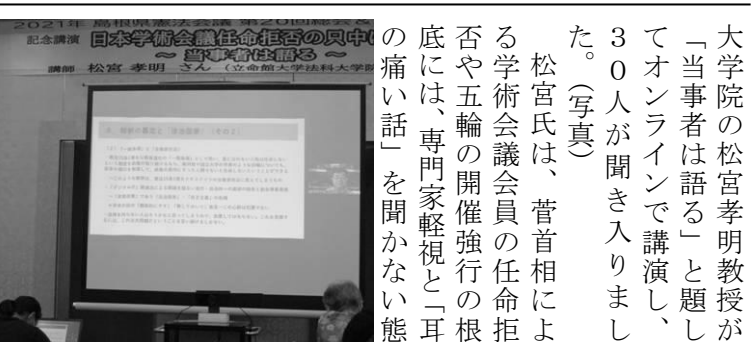
平田支部は「存続させて欲しい」という地域の要望に応えるため、引き続き努力する予定です。

学術会議任命拒否と五輪強行根は同じ

憲法会議 松宮孝明 立命館大学大学院教授 が講演・総会

島根県憲法会議は10日、松江市で第20回総会を開きました。

菅義偉首相が昨年10月、日本学術会議が推薦した会員候補6人を任命拒否した問題で、その中の1人、立命館大学法科



大学院の松宮孝明教授が「当事者は語る」と題してオンラインで講演し、30人が聞き入りました。(写真)

松宮氏は、菅首相による学術会議会員の任命拒否や五輪の開催強行の根底には、専門家軽視と「耳の痛い話」を聞かない態度があると指摘。憲法15条1項で国民固有の権利として規定された「公務員の選定罷免権」を一般条項として用い、「政権の意向に沿った人間でない」と任命しないというの「解釈の暴走だ」と批判し、「法治国家と民主主義の危機であり、この問題を放置してはならない」と力説しました。

総会では、池場哲哉事務局長が9条改憲を阻止するため「改憲発議に反対する全国緊急署名」を広げることや地域組織づくりの促進などを盛り込んだ2021年度活動方針案を確認しました。

中国地方の息遣い感じ取れるように

大平さんは3年近く衆院議員として活動する中で核兵器、憲法、原発、災害、教育など幅広いテーマに取り組みました。しかし、残念なことに2017年10月の総選挙では再選を果たすことができませんでした。「悔しさと申し訳なさでいっぱいでした。11年ぶりに皆さんからいただいた中国ブロックの貴重な議席だったのに」。



前衆院議員(衆院中国ブロック比例) **大平よしのぶ** 物語 (不定期掲載)

同時に、3年間の議員活動を通じてあらためて感じたことがあります。「61回の質問・討論に立ち、その都度各地で聞いた声を政府にぶつけてきたつもりだけど、今から振り返ると、それが自分の言葉、



自分の思いにどれだけなっていたか」。

中国ブロック候補としての立候補表明からわずか1カ月後に選挙に突入し、そのまま国会議員へ。日々目の前の仕事に追われ、地元へ帰るのは週末のみ。圧倒的に

経験不足でした。「あらためて中国地方を回ろう。もともとと生の声を聞き、皆さんの生活の中の息遣いまで感じ取れるようになる。各地で起きている問題をより深く理解して、自分の言葉で話せるようになる。そんな思いが強くなりました。議席奪還を目指す大平さんの新しい挑戦、中国地方全107自治体訪問のスタートです。(続く)

地域の話題

津 国保傷病手当金を 森川議員が要求

森川議員―鳥取県岩美町では、国民健康保険の傷病手当金を、国が支援する被用者だけでなく、個人事業主も対象としている。江市でもできないか。

保険年金課長―国民健康保険の傷病手当金は、国の財政支援がない部分は保険料でまかなう。岩美町のような独自給付は、被保険者に保険料負担を求めることとなるため難しい。

森川議員―個人事業主が新型コロナウイルスに感染した場合の生活保障をどう考えるのか。

保険年金課長―国民健康保険の財政運営を考

アムロム

南 トイレに生理用品配置を 日高議員が要望

児童・生徒の方から生理に関する悩み事は声に上げにくい。生理の時にも、安心して通学でき、健康で衛生的な生活を保障するために、学校の女子トイレ個室に返却不要の生理用品を設置すること、また、心や体の悩みを気兼ねなく相談できる環境を整備するよう求めました。

教育委員会は、誰もが安心して学校生活を送ることができる環境整備の一

津和野 「生理の貧困」意見書 町議会が可決

「コロナ禍における『生理の貧困』への支援を求める意見書の提出」について賛成多数(寺戸議員賛成。賛成10・反対1)で可決となりました。

意見書の主な内容は、①生理用品が入手困難な方に無償配布できる体制整備と財政支援を行うこと ②小中学校、高校施設に常備設置、無償配布の体制整備と財政支援を行うこと ③生理用品への軽減税率の適用を行うことです。

国や県、関係機関に提出されました。(寺戸まさ子の議会報告)より)

学生食料支援 ハッピーフードプロジェクト

- 7月18日(日) 10:00~12:00
- キッチンスタジオ・等「ナド」(松江市西川津町3234-2)

☆マイバッグをご持参ください。
☆当日、一緒にお手伝いしてくれるボランティアも募集中。

主催:日本民主青年同盟島根県委員会